

# まほろばだより

2022  
September  
vol.42

— Center for Diversity and Inclusion —

第42号

## Contents

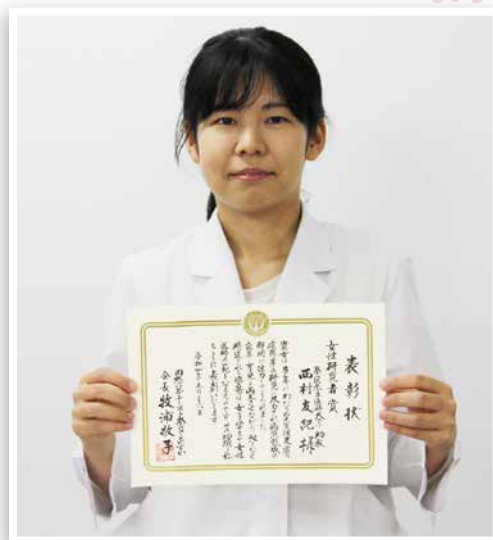
- Report 1 国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞
- Report 2 国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞
- Report 3 本学教員の競争的資金獲得割合
- Report 4 男女共同参画に関する授業の実施
- Information 1 第12回女性研究者学術研究奨励賞募集

Report  
1

## 皮膚科学講座 西村友紀助教が 国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました

国際ソロプチミストは、職業に就いている女性の世界的な組織で、女性と女性の生活向上のために顕彰事業や援助事業を実施しています。ソロプチミスト日本財団女性研究者賞は、様々な分野で将来性のある研究を日本国内で行っている優秀な女性に対し、研究費を支援する目的で創設された賞です。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、皮膚科学講座の浅田秀夫教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた西村友紀先生が、「薬剤性過敏症候群にヒトヘルペスウイルス6の持続感染を生じた症例の検討」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました。国際ソロプチミスト奈良—あすかの牧浦敬子会長、ソロプチミスト日本財団委員会の甲村誠子委員長から、育児と両立しながら研究、臨床、教育に熱心に取り組まれていることが高く評価されました。



Report  
2

## 生化学講座 牧野舞助教が 国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました



国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョンでは、リジョン区域限界内に在住する研究・人材ともに優秀な大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となり、毎年1名の候補者を学内で選考しています。

この度、生化学講座の高沢伸教授から推薦を受けた牧野舞先生が、「 $\beta$ 細胞における2型リアノジン受容体の組織特異的スプライスバリエーションの存在意義の解明」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。国際ソロプチミスト奈良—あすかの牧浦敬子会長、アワード委員会の吉田知子委員長からは、医学教育に従事する傍ら学業や研究にも熱心に取り組まれていると高い評価をいただきました。

# 本学教員の競争的資金獲得割合



現在多くの大学にとって外部資金獲得及び財源の多様化は取り組むべき課題となっています。外部資金獲得において最も一般的なものは競争的資金の獲得です。以下に示す競争的資金とは、文部科学省科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費補助金及び厚生労働行政推進調査事業費補助金、日本医療研究開発機構研究費です。

表1 専任教員数及び競争的資金獲得教員数(令和4年6月1日現在)

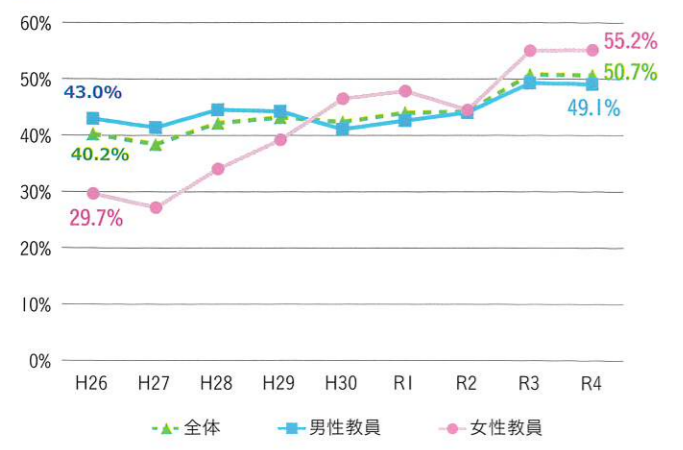
	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	18	3	38	17	222	46	5	30	283	96
	21		55		268		35		379	
獲得教員数(人)	9	3	28	13	99	18	3	19	139	53
	12		41		117		22		192	
獲得教員割合(%)	50.0%	100.0%	73.7%	76.5%	44.6%	39.1%	60.0%	63.3%	49.1%	55.2%
	57.1%		74.5%		43.7%*		62.9%		50.7%	

\*p < 0.05 臨床医学系 VS 基礎医学系、看護学科

今年度、競争的資金を獲得した専任教員は192人で、獲得教員割合は50.7%(379人中192人)と過半数を超えています(表1)。平成26年度以降、獲得教員割合は着実に増加しており、2年連続で50%以上となっています(図1)。

部門別では、臨床医学系の獲得割合が43.7%(268人中117人)と本学では最も低く、基礎医学系の74.5%(55人中41人)、看護学科の62.9%(35人中22人)と比べて有意に低い結果でした(表1)。

図1 男女別競争的資金獲得教員割合の推移



男女別では、男性教員の獲得割合が49.1%(283人中139人)、女性教員の獲得割合が55.2%(96人中53人)と男女間に有意な差は認めませんでした。平成26年度以降、女性教員の獲得割合は明らかに増加しており、平成30年度からは女性教員の獲得割合が男性教員を上回っています(図1)。これら女性教員の研究力向上は、当センターを含め法人全体で取り組んできた女性研究者・医師に対する様々な支援活動の成果と思われる。



図2 部門別競争的資金獲得教員割合の推移

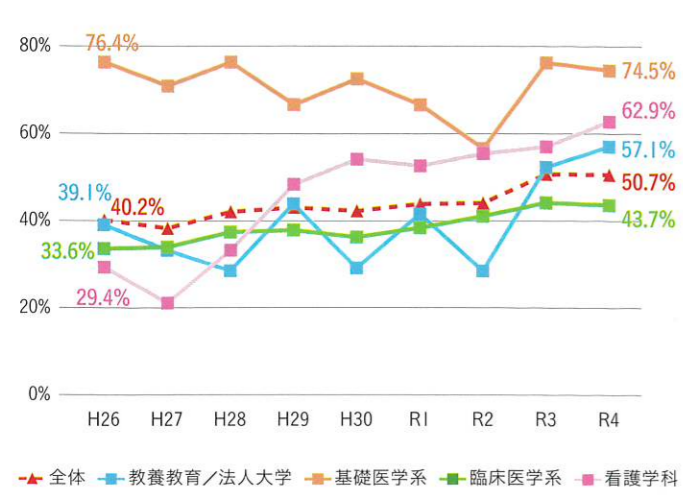
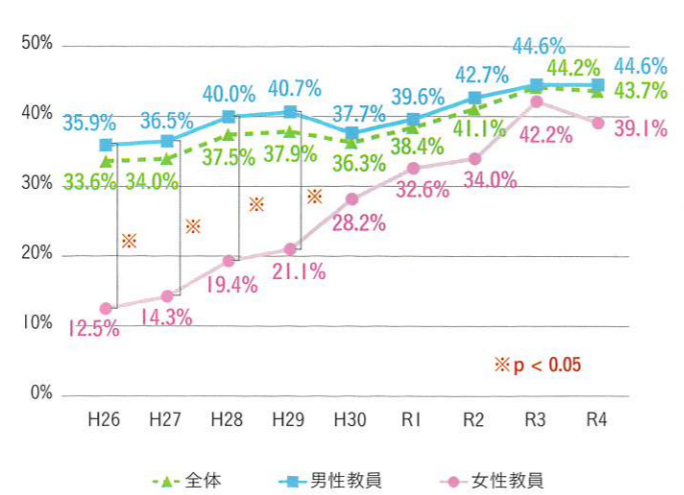


図3 臨床医学系教員の男女別獲得教員割合の推移



基礎医学部門は、データのある平成26年度以降、競争的資金を獲得している教員の割合が本学で最も高く、今年度も74.5%の教員が競争的資金を獲得しています(図2)。3人以上の教員が在籍する教室の中で、全教員が競争的資金を獲得している教室は、基礎医学部門の6教室(第一生理学、第二生理学、病原体・感染防御医学、微生物感染症学、法医学、発生・再生医学)と化学、成人慢性期看護学、在宅看護学の9教室であり、基礎医学部門が大部分を占めています。

臨床医学系教員の競争的資金獲得割合は、本学では最も低い43.7%ですが、平成26年度以降、着実に増加しています(図3)。特に臨床医学系女性教員の獲得割合は、平成26年度の12.5%から今年度は39.1%と飛躍的に増加しています。さらなる競争的資金獲得のためには、本学最多の37人にのぼる男性臨床系教員の科研費不申請教員数(表3)を低下させることが重要です。また、女性臨床系教員の科研費新規採択件数割合12.5%(表2)を高めていくことも重要と考えます。一方、臨床業務多忙の中で研究業績を伸ばしている教室も多く、消化器・総合外科学教室は本学最多の13人の教員が競争的資金を獲得しています。また、3人以上の教員が在籍する臨床系教室の中で、消化器・総合外科学(在籍教員の競争的資金獲得割合92.9%)、口腔外科学(87.5%)、リハビリテーション医学(75%)、病理診断学(66.7%)、耳鼻咽喉・頭頸部外科学(62.5%)、脳神経内科学(62.5%)、循環器内科学(62.5%)、放射線診断・IVR学(60%)、産婦人科学(58.3%)、精神医学(56.3%)、泌尿器科学(55.6%)の11教室は、過半数を超える教員が競争的資金を獲得しています。

看護学科の今年度競争的資金獲得教員割合は62.9%と本学で2番目に高く、平成26年度と比べると獲得教員割合は約2倍に増加しています(図2)。また、今年度の科研費新規採択件数割合は、看護学科が58.3%と本学で最も高い結果でした(表2)。多くの看護学科教員が、教育業務多忙の中で研究業績を伸ばしています。

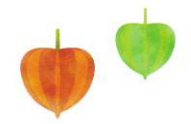


表2 教員申請科研費の新規採択割合(令和4年6月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
申請件数(人)	9	2	22	8	111	24	1	11	143	45
	11		30		135		12		188	
採択件数(人)	1	2	5	3	27	3	1	6	34	14
	3		8		30		7		48	
採択割合(%)	11.1%	100.0%	22.7%	37.5%	24.3%	12.5%	100.0%	54.5%	23.8%	31.1%
	27.3%		26.7%		22.2%		58.3%*		25.5%	

\*p < 0.05 看護学科 VS 臨床医学系

表3 科研費不申請教員割合(令和4年6月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	18	3	38	17	222	46	5	30	283	96
	21		55		268		35		379	
不申請教員数(人)	3	0	1	0	37	5	2	5	43	10
	3		1		42		7		53	
不申請教員割合(%)	16.7%	0.0%	2.6%	0.0%	16.7%	10.9%	40.0%	16.7%	15.2%	10.4%
	14.3%		1.8%*		15.7%		20.0%		14.0%	

\*p < 0.05 基礎医学系 VS 臨床医学系、看護学科

今年度の科研費不申請教員(令和3年9月時点で本学に在籍し、令和3年度末に科研費による研究期間が終了する教員の中で、新たに科研費申請をしなかった教員)の割合は14.0%(男性15.2%、女性10.4%)で、大部分の教員が科研費を適切に申請していました(表3)。

女性研究者・医師支援センターでは、今後も女性研究者のさらなる競争的資金獲得増加を目指して、研究支援を行っていきたく思います。今年度の競争的資金獲得に関する詳細なデータは、当センターHPでも公開していますので是非ご覧ください。





## 男女共同参画に関する授業の実施

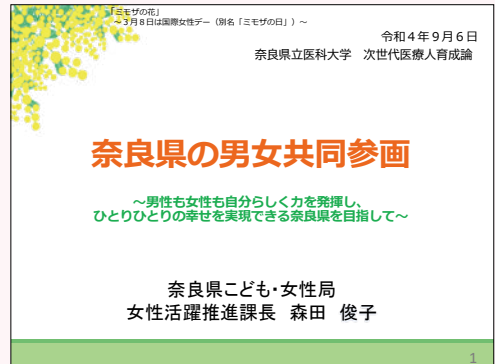


### 「奈良県の男女共同参画」 講師：奈良県子ども・女性局女性活躍推進課 森田 俊子 課長

医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」に、9月6日(火)奈良県子ども・女性局女性活躍推進課の森田俊子課長をお招きしました。当日は、女性研究者・医師支援センターの須崎康恵マネージャーが司会を務め、森田俊子課長から奈良県の男女共同参画について、さまざまなデータをもとにご講演いただきました。男性も女性も自分らしく力を発揮し、ひとりひとりの幸せを実現できる奈良県を目指して、行政が女性



▲ 講師：森田俊子課長



性の就労支援、父親の育児参加促進、子育て応援、性暴力への対策に取り組んでいることをわかりやすくご説明くださいました。講演には学生参加型の形式も取り入れられており、学生達が身近な話題から主体的に男女共同参画について考える授業となりました。また、自分達の街である奈良県の取組を知る良い機会になったと思います。

本学は、県が主催する「なら女性活躍推進倶楽部」に登録し、須崎康恵マネージャーが奈良県男女共同参画県民会議委員および奈良県男女共同参画審議会委員を務める等、奈良県と連携して女性活躍推進に向けた活動を行っています。今後



▲ 司会：須崎康恵マネージャー



▲ 授業の様子

も県と協力して、奈良県で学ぶ医学科と看護学科の学生が男女共同参画社会の実現を担う良き医療人に成長できるよう、男女共同参画に関する教育に取り組んでいきたいと思っています。



## 第12回女性研究者学術研究奨励賞募集



本学では、優れた研究成果を挙げた本学的女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

次回、第12回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全職員へ一斉メールで通知します。

また、各教室の所属長には紙面でもご案内します。過去の受賞者一覧と研究テーマは当センターHPに掲載しています。数多くの女性研究者からのご応募をお待ちしています。



▲ 当センターHPQR

### 【編集後記】

猛暑の中、夏休み返上で科研費の申請に取り組まれた研究者も多くおられると思います。当センターは令和3年度、8名的女性研究者に科研費の申請支援を行い、3名(臨床系教員2名、診療助教1名)の新規採択に至りました。今年度は、11名的女性研究者に面談と申請書添削を提供しています。来年の春に嬉しいお知らせが届くことをセンター一同祈っております。皆さま科研費申請お疲れ様でした。マネージャー 須崎康恵

### 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL: 0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代) 内線: 2525  
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

